



## 平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成31年1月30日

上場会社名 東海旅客鉄道株式会社  
 コード番号 9022 URL <http://ir-central.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員広報部長  
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月6日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名

(氏名) 金子 慎  
 (氏名) 丹羽 俊介

TEL 052-564-2549

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	1,407,716	2.4	597,647	6.4	539,872	7.1	375,685	10.6
30年3月期第3四半期	1,374,385	4.2	561,884	9.1	503,924	6.5	339,767	2.6

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 368,299百万円 (4.0%) 30年3月期第3四半期 354,163百万円 (3.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	1,917.62	—
30年3月期第3四半期	1,730.19	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	9,141,375	3,429,432	37.2
30年3月期	8,908,682	3,084,739	34.3

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 3,396,341百万円 30年3月期 3,055,410百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	70.00	—	70.00	140.00
31年3月期	—	70.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	70.00	140.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,855,000	1.8	673,000	1.7	594,000	1.8	411,000	3.9	2,097.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年3月期3Q	206,000,000 株	30年3月期	206,000,000 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

31年3月期3Q	9,960,859 株	30年3月期	10,173,749 株
----------	-------------	--------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期3Q	195,912,625 株	30年3月期3Q	196,375,343 株
----------	---------------	----------	---------------

(注) 期末自己株式数、及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式には、株式給付信託(従業員持株会処分型)にかかる信託口が保有する以下の当社株式を含めています。

期末自己株式数 : 31年3月期3Q 760,000株 30年3月期 972,900株

期中平均株式数 : 31年3月期3Q 886,525株 30年3月期3Q 423,778株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び計画に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の経済情勢等によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記業績予想(平成31年3月期の連結業績予想)については、平成31年3月期第2四半期決算発表時から変更はありません。

2. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載することとしています。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結貸借対照表関係)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、事業の中核である鉄道事業における安全・安定輸送の確保を最優先に、サービスの一層の充実を図るとともに、社員の業務遂行能力の向上、設備の強化、設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化等の取組みを続け、収益力の強化に努めました。

東海道新幹線については、大規模改修工事や脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策を引き続き推進したほか、「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、需要にあわせたより弾力的な列車設定に取り組みました。また、N700A（3次車）の投入を進めるとともに、引き続きN700S確認試験車による走行試験を実施しました。

在来線については、名古屋工場の耐震化等の地震対策、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。

営業施策については、東海道・山陽新幹線のネット予約・チケットレス乗車サービスである「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくための取組みを実施し、昨年12月には「スマートEX」の登録者数が約190万人となりました。また、沿線の観光資源の魅力を活かした営業施策を推進するなど、ご利用拡大に向けた取組みを積極的に展開しました。

超電導磁気浮上式鉄道（以下「超電導リニア」という。）による中央新幹線については、工事実施計画の認可を受けた品川・名古屋間について、地域との連携を密にしながら、測量、設計、用地取得を進めるとともに、大深度地下においてシールド工法でトンネルの掘削工事を行う第一首都圏トンネル北品川工区、第一中京圏トンネル坂下西工区等で工事契約を締結しました。また、これまでに工事契約を締結した工区において、地域にお住まいの方々へ工事概要や安全対策等についてご説明するための工事説明会を開催したほか、南アルプストンネル静岡工区について、静岡市と中央新幹線の建設と地域振興に関する基本合意書を締結するとともに、工事作業員等の宿舍施設の建設を開始するなど、今後の工事着手に向けた準備に取り組みました。工事については、新たに東京都の東雪谷非常口、神奈川県等の等々力非常口、愛知県の名城変電所で本格的な工事に着手しました。既に工事に着手している南アルプストンネル山梨工区では斜坑、先進坑、本坑の掘削、長野工区では斜坑の掘削を進めるとともに、品川駅及び名古屋駅では地中連続壁や工事桁を施工したほか、山岳トンネル、都市部非常口等で工事を着実に進めました。加えて、昨年10月に中央新幹線品川・名古屋間の大深度地下使用の認可を受けました。引き続き、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視して着実に取り組みます。

一方、山梨リニア実験線においては、営業線仕様の車両及び設備により、2編成を交互に運用して、引き続き長距離走行試験を実施することなどにより、営業運転に対応した保守体系の確立に向けた実証等を進めるとともに、超電導リニア技術のブラッシュアップ及び営業線の建設・運営・保守のコストダウンに取り組みました。また、「超電導リニア体験乗車」を引き続き計画的に実施し、多くの方々に速度500km/h走行を体験していただき、累計参加者数は10万人を超えました。

海外における高速鉄道プロジェクトへの取組みについては、米国テキサスプロジェクトの事業開発主体に対し、現地子会社「High-Speed-Railway Technology Consulting Corporation」による技術仕様策定等の技術支援を進めたほか、日本側企業とともにコアシステム受注を目指す現地子会社「High-Speed-Railway Integration Corporation」を設立し、事業開発主体との協議等、コアシステム受注の契約に向けた準備活動を行いました。また、引き続き超電導リニアシステムを用いた米国北東回廊プロジェクトのプロモーション活動を推進しました。加えて、台湾高速鉄道において技術コンサルティングを進めました。さらに、日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを推進しました。

鉄道以外の事業については、JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを一体的に運営し、積極的な営業・宣伝活動を行うことで、収益の拡大を図りました。また、流通事業の活性化や駅商業施設のリニューアルを行い、競争力、販売力の強化に努めました。

さらに、経営体力の一層の充実を図るため、安全を確保した上で設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化の徹底に取り組みました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における全体の輸送実績(輸送人キロ)は、ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移したことから、前年同期比2.2%増の499億2千9百万人キロとなりました。また、営業収益は前年同期比2.4%増の1兆4,077億円、経常利益は前年同期比7.1%増の5,398億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比10.6%増の3,756億円となりました。

これをセグメントごとに示すと次のとおりです。

## ① 運輸業

東海道新幹線については、土木構造物の健全性の維持・向上を図るため、不断のコストダウンを重ねながら大規模改修工事を着実に進めました。地震対策については、より安全性の高い方式に改めた脱線防止ガードの敷設を進めるなど、東海道新幹線全線を対象にした脱線・逸脱防止対策に取り組みました。また、「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、お客様のご利用の多い時期や時間帯に、需要にあわせたより弾力的な列車設定に努め、多くのお客様にご利用いただきました。さらに、N700A(3次車)の投入、既存車両に地震ブレーキの停止距離短縮等の3次車の特長を反映させる改造工事を進めるとともに、N700S確認試験車により、加速性能やブレーキ性能等の確認のための16両編成及び8両編成の基本性能試験や、バッテリー自走システムによる基本性能試験を行いました。加えて、可動柵について、新大阪駅20~26番線ホームへの設置に向けた工事を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

在来線については、名古屋工場の耐震化等に加え、橋脚の耐震補強等の地震対策を引き続き進めるとともに、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。また、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行いました。さらに、車種や両数が様々であるという当社の実情に適合した可動柵の開発を進め、金山駅での実証試験を完了し、金山駅東海道本線ホームへの設置に向けた準備を行うとともに、内方線付き点状ブロックへの取替を進めました。そのほか、新型車掌携帯端末を活用し特急列車等の車内改札方法の変更を行うなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。なお、「平成30年7月豪雨」により被災し、一部区間で運転を見合わせていた高山本線について、早期復旧に取り組み、昨年11月21日に全線での運転を再開しました。

新幹線・在来線共通の取組みとしては、車両や設備の異常を早期に発見し、対応を迅速化するためのさらなる取組みを進めるとともに、自然災害や不測の事態等の異常時に想定される様々な状況に対応すべく実践的な訓練等を実施しました。また、地震対策として、駅の吊り天井の脱落防止対策を進めました。

営業施策については、東海道・山陽新幹線のネット予約・チケットレス乗車サービスである「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくために積極的な宣伝活動を行うとともに、「EXのぞみファミリー早特」をはじめとした観光型商品等の販売促進に取り組み、幅広く需要の喚起を図りました。また、京都、奈良、東京、飛騨、伊勢志摩等の観光資源を活用した各種キャンペーンやこれと連動した旅行商品を設定しました。さらに、JR6社で行う「愛知デスティネーションキャンペーン」を通じて、自治体や旅行会社等と連携し、魅力ある観光素材・商品の開発や観光列車の運行等に取り組みるとともに、「Japan Highlights Travel」、「Shupo」等を通じて地域との連携を強化し、お客様のご利用拡大に努めました。加えて、訪日外国人の利便性向上を図るため、在来線への駅ナンバリング導入、東海道新幹線や特急「ひだ」における無料Wi-Fiサービスの提供開始、特急「ひだ」車内の和式トイレの一部の洋式化を行ったほか、タブレット端末やスマートフォン等を活用した駅・車内における英語放送の充実に努めました。TOICAについては、電子マネー加盟店舗の拡大等に取り組みました。

当第3四半期連結累計期間における輸送実績(輸送人キロ)は、ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移したことから、東海道新幹線は前年同期比2.6%増の427億3千4百万人キロ、在来線は前年同期比0.2%減の71億9千5百万人キロとなりました。

バス事業においては、安全の確保を最優先として顧客ニーズを踏まえた商品設定を行い、収益の確保に努めました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比2.5%増の1兆1,097億円、営業利益は前年同期比6.4%増の5,663億円となりました。

## ② 流通業

流通業においては、「タカシマヤ ゲートタワーモール」において開業1周年キャンペーンを開催するとともに、「ジェイアール名古屋タカシマヤ」と「タカシマヤ ゲートタワーモール」が連携して、顧客ニーズを捉えた営業施策を展開することで、収益力の強化に努めました。また、駅構内の店舗においてリニューアルを実施したほか、品揃えの拡充等を通じて競争力を高めました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比3.3%増の1,942億円、営業利益は前年同期比20.8%増の70億円となりました。

## ③ 不動産業

不動産業においては、「東京駅一番街」の飲食店エリア内に「東京グルメゾン」、新富士駅に「アスティ新富士」を開業したほか、静岡駅ビル「パルシェ」の「食彩館」でリニューアルを実施するなど、競争力、販売力の強化に取り組みました。また、社宅跡地の開発において、岐阜市内の分譲マンション「セントラルガーデン・レジデンス岐阜加納」及び分譲宅地の第2期、愛知県刈谷市内の分譲マンション「セントラルガーデン・レジデンス刈谷」の販売を進め、完売しました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比1.7%増の592億円、営業利益は前年同期比6.5%増の159億円となりました。

## ④ その他

ホテル業においては、魅力ある商品の設定や販売力強化に取り組むとともに、海外からのお客様のニーズも踏まえたより高品質なサービスの提供に努めました。

旅行業においては、京都、奈良、東京、飛騨、伊勢志摩等の各方面へ向けた観光キャンペーン等と連動した魅力ある旅行商品を積極的に販売しました。

鉄道車両等製造業においては、鉄道車両や建設機械等の受注・製造に努めました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比7.3%減の1,571億円、営業利益は前年同期比14.7%減の84億円となりました。

## (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想については、平成31年3月期第2四半期決算発表時から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	469,863	617,610
中央新幹線建設資金管理信託	※1 2,840,931	※1 2,670,591
受取手形及び売掛金	55,774	51,854
未収運賃	46,246	53,856
有価証券	308,500	165,900
たな卸資産	38,116	54,010
その他	45,349	52,913
貸倒引当金	△13	△18
流動資産合計	3,804,768	3,666,719
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,499,397	1,437,536
機械装置及び運搬具(純額)	252,386	234,454
土地	2,354,570	2,354,698
建設仮勘定	401,234	520,072
その他(純額)	37,142	31,350
有形固定資産合計	4,544,732	4,578,113
無形固定資産	55,659	58,045
投資その他の資産		
投資有価証券	306,937	640,137
繰延税金資産	166,438	170,156
その他	35,610	33,884
貸倒引当金	△5,463	△5,680
投資その他の資産合計	503,522	838,497
固定資産合計	5,103,914	5,474,656
資産合計	8,908,682	9,141,375

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	81,240	62,091
短期借入金	27,509	27,336
1年内返済予定の長期借入金	82,047	120,525
1年内返済予定の株式給付信託長期借入金	5,400	5,400
1年以内に支払う鉄道施設購入長期未払金	5,126	5,283
未払法人税等	109,783	70,517
賞与引当金	28,218	14,797
その他	263,498	235,783
流動負債合計	602,823	541,735
固定負債		
社債	734,295	773,278
長期借入金	490,838	439,120
中央新幹線建設長期借入金	※1 3,000,000	※1 3,000,000
株式給付信託長期借入金	15,100	10,600
鉄道施設購入長期未払金	543,897	541,214
新幹線鉄道大規模改修引当金	175,000	148,750
退職給付に係る負債	201,006	197,984
その他	60,980	59,259
固定負債合計	5,221,118	5,170,207
負債合計	5,823,942	5,711,942
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	112,000	112,000
資本剰余金	53,498	53,497
利益剰余金	2,976,434	3,324,540
自己株式	△121,687	△117,632
株主資本合計	3,020,245	3,372,404
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38,011	24,368
繰延ヘッジ損益	△3	—
退職給付に係る調整累計額	△2,842	△431
その他の包括利益累計額合計	35,164	23,936
非支配株主持分	29,329	33,091
純資産合計	3,084,739	3,429,432
負債純資産合計	8,908,682	9,141,375



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
営業収益	1,374,385	1,407,716
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	676,611	673,700
販売費及び一般管理費	135,889	136,368
営業費合計	812,500	810,069
営業利益	561,884	597,647
営業外収益		
受取利息	149	1,049
受取配当金	2,688	3,049
受取保険金	192	115
その他	2,115	2,688
営業外収益合計	5,146	6,903
営業外費用		
支払利息	31,606	34,126
鉄道施設購入長期未払金利息	26,897	26,598
その他	4,602	3,952
営業外費用合計	63,106	64,678
経常利益	503,924	539,872
特別利益		
工事負担金等受入額	3,764	1,610
その他	10,552	191
特別利益合計	14,316	1,802
特別損失		
固定資産圧縮損	3,671	1,596
固定資産除却損	1,177	1,136
鉄道車両製造業解決金	※1 26,445	—
その他	5,664	453
特別損失合計	36,957	3,186
税金等調整前四半期純利益	481,283	538,488
法人税等	147,355	158,918
四半期純利益	333,928	379,570
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5,839	3,884
親会社株主に帰属する四半期純利益	339,767	375,685

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	333,928	379,570
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,670	△13,541
繰延ヘッジ損益	3	7
退職給付に係る調整額	2,441	2,256
持分法適用会社に対する持分相当額	119	6
その他の包括利益合計	20,234	△11,270
四半期包括利益	354,163	368,299
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	359,108	364,457
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,945	3,841

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- ※1 中央新幹線の建設の推進のため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構より資金を借り入れ、分別管理を目的として信託を設定しています。

(四半期連結損益計算書関係)

- ※1 当社の連結子会社である日本車輛製造株式会社において、米国向け大型鉄道車両案件における車両の製造を別の車両メーカーが行うことに伴い、同社が住友商事株式会社及び米州住友商事会社に対して解決金を支払うことにより生じた損失です。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社においては、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて税金費用を計算しています。

## (セグメント情報)

## ① 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	1,073,576	178,449	34,783	87,575	1,374,385	—	1,374,385
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,895	9,484	23,484	81,949	123,814	△123,814	—
計	1,082,472	187,933	58,268	169,525	1,498,199	△123,814	1,374,385
セグメント利益	532,306	5,841	15,011	9,932	563,092	△1,207	561,884

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△1,207百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## ② 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	1,100,619	185,648	35,304	86,144	1,407,716	—	1,407,716
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,126	8,555	23,946	70,986	112,615	△112,615	—
計	1,109,745	194,203	59,251	157,131	1,520,331	△112,615	1,407,716
セグメント利益	566,305	7,055	15,987	8,474	597,822	△175	597,647

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△175百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## 平成30年度第3四半期連結決算概要

平成31年1月30日  
東海旅客鉄道株式会社

- ・当社の運輸収入は、**ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移したため増収**。さらに、**グループ会社についても増収となり、連結営業収益全体でも増収**。
- ・営業費については、**当社の減価償却費の減等により微減**。
- ・この結果、**増収・増益**（営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益）**の決算**。
- ・通期の業績予想については、**前回予想を据え置く**。引き続き安全・安定輸送の確保を最優先に、グループ全体で収益力の強化と設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化を徹底し、経営体力の充実を図る。

## 1. 連結損益の概要（累計）

**(1) 営業収益（1兆4,077億円 前年同期比+333億円、2.4%増）**

- ・当社の**運輸収入は、前年同期比276億円（2.7%）増の1兆620億円**。
  - ・東海道新幹線については、「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、需要にあわせたより弾力的な列車設定を実施するなど、輸送サービスの充実に取り組んだ。また、「エクスプレス予約」及び「スマートEX」のご利用拡大を図るとともに、「EXのぞみファミリー早特」をはじめとした観光型商品等の販売促進に取り組み、幅広く需要の喚起を図った。
  - ・在来線については、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行い、ご利用の拡大に努めた。また、「平成30年7月豪雨」により被災した高山本線の早期復旧に取り組み、昨年11月に全線での運転を再開した。
  - ・上記の結果、当第3四半期の東海道新幹線の運輸収入は前年同期比280億円（2.9%）増の9,828億円、在来線の運輸収入は前年同期比4億円（0.6%）減の792億円となった。
- ・鉄道以外の事業においては、JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを一体的に運営し、積極的な営業・宣伝活動を行った。JRゲートタワーにおける営業収益の増加等もあり、グループ全体でも増収。

**(2) 営業費（8,100億円 前年同期比△24億円、0.3%減）**

- ・当社の減価償却費が減少したことなどにより、グループ全体で微減。

**(3) 営業利益（5,976億円 前年同期比+357億円、6.4%増）****(4) 営業外損益（△577億円 前年同期比+1億円）****(5) 経常利益（5,398億円 前年同期比+359億円、7.1%増）****(6) 親会社株主に帰属する四半期純利益（3,756億円 前年同期比+359億円、10.6%増）**

## 2. 平成30年度の業績予想

- ・通期の業績予想については、前回予想を据え置く。

※ 金額は単位未満端数切捨（補足説明資料2以降についても同じ）

## 比較第3四半期損益計算書【連結】

(単位 億円、%)

科 目	平成29年度 累 計	平成30年度 累 計	増 減	前期比
営 業 収 益	13,743	14,077	333	102.4
運 輸 業	10,735	11,006	270	102.5
流 通 業	1,784	1,856	71	104.0
不 動 産 業	347	353	5	101.5
そ の 他	875	861	△ 14	98.4
営 業 費	8,125	8,100	△ 24	99.7
営 業 利 益	5,618	5,976	357	106.4
営 業 外 損 益	△ 579	△ 577	1	99.7
営 業 外 収 益	51	69	17	134.1
営 業 外 費 用	631	646	15	102.5
経 常 利 益	5,039	5,398	359	107.1
特 別 損 益	△ 226	△ 13	212	6.1
税金等調整前四半期純利益	4,812	5,384	572	111.9
法 人 税 等	1,473	1,589	115	107.8
四 半 期 純 利 益	3,339	3,795	456	113.7
非支配株主に帰属する 四 半 期 純 損 益	△ 58	38	97	-
親会社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	3,397	3,756	359	110.6
四 半 期 包 括 利 益	3,541	3,682	141	104.0

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

## 比較第3四半期損益計算書【単体】

(単位 億円、%)

科 目	平成29年度 累 計	平成30年度 累 計	増 減	前期比
営 業 収 益	10,851	11,125	274	102.5
運 輸 収 入	10,344	10,620	276	102.7
そ の 他 の 収 入	506	505	△ 1	99.7
営 業 費	5,503	5,438	△ 64	98.8
人 件 費	1,351	1,356	5	100.4
物 件 費	2,385	2,349	△ 36	98.5
租 税 公 課	306	313	7	102.5
減 価 償 却 費	1,460	1,418	△ 41	97.1
営 業 利 益	5,347	5,687	339	106.3
営 業 外 損 益	△ 573	△ 583	△ 9	101.6
営 業 外 収 益	47	64	17	135.9
営 業 外 費 用	621	647	26	104.3
経 常 利 益	4,773	5,104	330	106.9
特 別 損 益	1	△ 0	△ 1	-
税 引 前 四 半 期 純 利 益	4,775	5,103	328	106.9
法 人 税 等	1,437	1,518	80	105.6
四 半 期 純 利 益	3,338	3,585	247	107.4

## 輸送人キロおよび運輸収入の比較（第3四半期）

(単位 百万人キロ、億円、%)

			平成29年度 累 計	平成30年度 累 計	増 減	前期比	(参考) 平成30年度 10~12月	
							前期比	
輸 送 人 キ ロ	新 幹 線	定 期	1,128	1,160	31	102.8	387	102.6
		定期外	40,526	41,574	1,049	102.6	14,446	103.3
		合 計	41,654	42,734	1,080	102.6	14,833	103.3
	在 来 線	定 期	4,342	4,355	13	100.3	1,456	100.4
		定期外	2,865	2,841	△24	99.2	965	102.0
		合 計	7,207	7,195	△11	99.8	2,421	101.0
	合 計	定 期	5,470	5,514	44	100.8	1,843	100.9
		定期外	43,390	44,415	1,024	102.4	15,411	103.2
		合 計	48,861	49,929	1,069	102.2	17,254	102.9
運 輸 収 入	新 幹 線	定 期	134	138	3	102.8	46	102.6
		定期外	9,413	9,689	276	102.9	3,374	103.7
		合 計	9,547	9,828	280	102.9	3,420	103.7
	在 来 線	定 期	267	268	0	100.3	88	100.4
		定期外	529	523	△5	99.0	177	102.2
		合 計	796	792	△4	99.4	266	101.6
	合 計	定 期	401	406	4	101.2	134	101.1
		定期外	9,942	10,213	271	102.7	3,552	103.6
		合 計	10,344	10,620	276	102.7	3,687	103.5
	合 計 (小荷物含む)		10,344	10,620	276	102.7	3,687	103.5

- (注) 1. 当社単体に係る輸送人キロおよび運輸収入を記載  
2. 輸送人キロは単位未満端数四捨五入



## 比較第3四半期貸借対照表【連結】

(単位 億円)

科 目	平成29年度 期 末	平成30年度 第3四半期末	増 減
流 動 資 産	38,047	36,667	△ 1,380
うち 中央新幹線建設資金管理信託	28,409	26,705	△ 1,703
固 定 資 産	51,039	54,746	3,707
有 形 ・ 無 形 固 定 資 産	46,003	46,361	357
投 資 そ の 他 の 資 産	5,035	8,384	3,349
資 産 合 計	89,086	91,413	2,326
流 動 負 債	6,028	5,417	△ 610
固 定 負 債	52,211	51,702	△ 509
負 債 合 計	58,239	57,119	△ 1,120
純 資 産 合 計	30,847	34,294	3,446
負 債 純 資 産 合 計	89,086	91,413	2,326
(再掲) 長期債務	48,562	48,794	232
中央新幹線建設長期借入金	30,000	30,000	-
社 債	7,342	7,732	389
長 期 借 入 金	5,728	5,596	△ 132
鉄道施設購入長期未払金	5,490	5,464	△ 25

## 参考:比較第3四半期セグメント別営業損益

(単位 億円、%)

科 目		平成29年度 累 計	平成30年度 累 計	増 減	前期比
営 業 収 益	運 輸 業	10,824	11,097	272	102.5
	流 通 業	1,879	1,942	62	103.3
	不 動 産 業	582	592	9	101.7
	そ の 他	1,695	1,571	△ 123	92.7
	調 整 額	△ 1,238	△ 1,126	111	91.0
	計	13,743	14,077	333	102.4
セグメント利益 ( 営 業 利 益 )	運 輸 業	5,323	5,663	339	106.4
	流 通 業	58	70	12	120.8
	不 動 産 業	150	159	9	106.5
	そ の 他	99	84	△ 14	85.3
	調 整 額	△ 12	△ 1	10	14.5
	計	5,618	5,976	357	106.4

- (注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む  
2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去